

長岡ながをかの都みやこは、桓武天皇くわんむてんわう延暦三年に、ならの京よりうつされしなり。鳳城うへぼむらの地は上羽村むらの良にあり、字を御所屋舗といふ、檜木原かたぎがはらの南より山崎やまざきの北まで、南北長き岡山をかなれば長岡ながと号るが。此地に都のありしは十三年の間にして、今の平安城へいあんじやうにうつれしなり。「今は惣名にじを西の岡をかといふ」

なりひらの朝臣あそんのは、のみこながをかに侍りける時に、なりひら宮づかへすとて時々もえまかりとぶらはず侍ければ。しはすはかりには、のみこのもとよりとみの事とてふみをもてまうできたり。あけてみればことばはなくて有けるうた

古 今 おいぬればさらぬ別もありといへばいよく見ま、ほしき君かな

返 し

世の中にさらぬ別のなくもがなちよもとなげく人のこのため 　　なりひらの朝臣